

ベルランド総合病院

社会医療法人生長会ベルランド総合病院（写真1）は、1982年に大阪府堺市に開院し、地域の中核病院としての機能を果たしてきました。堺市は、人口約80万人の政令指定都市です。2014年には全面建て替えを行い、病院機能を飛躍的に拡充させ、一般病床数477床、34標準診療科、手術室13室（ハイブリッド手術室2室含む）、医師数約170人を有し、癌、救急、周産期を中心に高度急性期医療を実践しています。

癌医療においては、大阪府がん診療拠点病院として、手術、化学療法、放射線治療などを組み合わせた集学的治療の提供に加え、緩和ケア病棟を設置し、治療から終末期ケアまでを一貫して診療できる体制を整備しています。2019年より手術支援ロボット“Da Vinci”を導入し、現在では2台体制で11の部位においてロボット手術を実施して、患者さんの負担の少ない低侵襲医療を推進しています。

救急医療では、総合急病救急センターを中心に24時間365日の救急医療を実践し、年間10,000件以上の救急搬送の受け入れを行っています。

周産期分野では、2007年に堺市で唯一の地域周産期母子医療センターの認定を受け、ハイリスク妊婦から低出生体重児の受け入れまでトータルサポートを展開しています。

当院は、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、呼吸器外科専門医合同委員会専門研修基幹施設、日本呼吸器学会認定施設、日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設、日本放射線腫瘍学会認定施設です。呼吸器治療スタッフ（写真2）は、呼吸器内科が8人、放射線治療科が2人、呼吸器外科が3人（3人中、日本呼吸器内視鏡学会指導医2人、専門医3人）です。当院には初期研修医が20人ほど在籍していて、呼吸器内科と呼吸器外科でも研修しています。呼吸器カンファレンスを週に1回、呼吸器内科、放射線治療科、呼吸器外科合同で行い、治療方針を検討しています。

気管支鏡検査は主に呼吸器内科が担当し、週2日肺癌



写真1. ベルランド総合病院全景。

に対する診断を中心に1日1~4件行っています。2024年度の気管支鏡検査総数は311件（TBLB 65件、TBNA 32件、BAL 71件など）で、TBLBはほぼ全例でガイドシース法を用いています。

原発性肺癌に対する放射線治療は、2024年に69例あり、根治照射が35例、対症照射が34例でした。2025年4月からIMRT（強度変調放射線治療：Intensity Modulated Radiation Therapy）を開始しました。副作用リスクを軽減して病変に放射線を集中させることが可能です。また、cT1-2N0M0症例やオリゴ転移に対するSBRT（体幹部定位放射線治療：Stereotactic Body Radiation Therapy）も施行しています。

呼吸器外科手術は、年間全身麻酔件数が約240件で、肺癌の手術が90件余りです。肺癌手術は、多数の症例をロボットで行っています。当科の特徴として、胸膜中皮腫に対する手術の患者さんも多く、中国上海からも来られたことがあります。北海道や仙台からも来院されています。呼吸器インターベンションは、主に呼吸器外科が担当し、2024年の硬性鏡は5件でした。

学術活動については、日本呼吸器内視鏡学会以外にも

¹社会医療法人生長会ベルランド総合病院呼吸器外科。

著者連絡先：岡部和倫、社会医療法人生長会ベルランド総合病院呼吸器外科、〒599-8247 大阪府堺市中区東山500-3(tel: 072-234-2001, fax: 072-234-2003, e-mail: okabe-oka@umin.ac.jp)。

施設連絡先：社会医療法人生長会ベルランド総合病院呼吸器外科、〒599-8247 大阪府堺市中区東山500-3(tel: 072-234-2001, fax: 072-234-2003)。

© 2025 The Japan Society for Respiratory Endoscopy

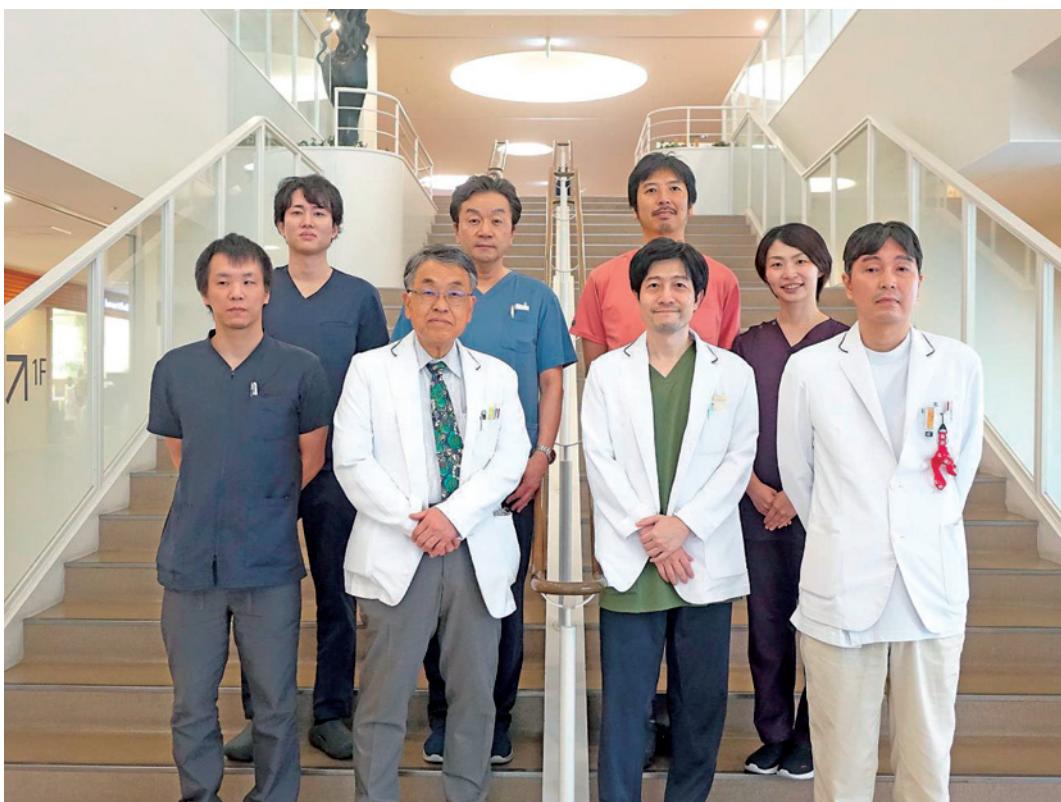


写真2. 呼吸器治療スタッフ（呼吸器内科医8人中4人、放射線治療医2人中1人、呼吸器外科医3人）。

国内外の学会での発表および参加を積極的に行い、最新の医療を導入しています。特に呼吸器外科医3人は呼吸器内視鏡学会専門医で、その内2人は指導医かつ評議員ですので、今後も本学会学術集会参加や気管支鏡への投稿を積極的に行っていきたいです。著者は、北米のBrigham and Women's Hospital, University of Colorado Hospital, Fox Chase Cancer CenterなどでGrand Roundsを行いました。また、著者は、強く依頼されてThe Thoracic and Cardiovascular SurgeonのEditor-in-Chief Thoracicを今年から務めています。本誌は、ドイツ、イス、ルクセンブルク、オーストリアの胸部外科学院の公式学会誌です。著者は中国との太いパイプもあり、呼吸器外科手術を2019年の1年間に1万7千件以上実施した上海市肺科医院で合計30日ほど手術見学し、8回ほど講演させていただきました。北米、ヨーロッパ、

中国の最先端医療も参考にしています。

当院では、日常的な疾患から高度医療を要する症例まで、幅広く経験できます。業者の集計によると、ロボットを用いた呼吸器外科手術数は、関西で上位にランクされるそうです。著者は、ハーバード大学教育病院での診療経験がありますので、アメリカ医師試験対策を伝授できます。時々、若い医師や学生さんが、保存してある私の参考書や問題集を見に来られています。当院での研修や診療の希望者を歓迎します。映画のロケができるような美しい病院を見学してみませんか。ご連絡をお待ちしています。

岡部和倫¹